

【雨楽シリーズ 高岡のまちや】

かつての日本の家に確かにあったもの。本物の木と紙と土で造った家、時を経てなお趣を増す家、深い軒が陰影を描く家、応接の場になったり子供の遊び場になったりさまざまな機能を持った土間、家族の笑顔があふれる居間、開放したり仕切ったりしながら日々の暮らしに対応できる間取り、どこにいても家族の気配が感じられる空間。こうした家で子供たちは、家族の中で自分の位置や立場、思いやりや優しさ、絆や情緒を、五感で学びながら成長しました。

今一度とり戻したいと思います。日本の風土・文化・歴史に根ざした本当の意味での日本の住まいの原形。職人たちが精確傾けた手仕事で光る家を造りたい。そんな思いを込めて完成させたのが「雨楽シリーズ 高岡のまちや」です。

日本人の心と

美意識。



【和室・飾り棚】

● 住まいの主流は洋風、和室は必要ですか？

田舎の家に行つて、開放した座敷の畳に寝転んだときの、何とも言えないのんびりした気持ちと味わったことはありませんか。畳のスペースは絶対に不可欠だとは言いませんが、イグサの香りには日本人の心を落ち着かせる力があると思うのです。

日本の住まいの原点は草庵茶室にあると言われます。無垢の丸太と竹土壁、畳、華美に走らず、端正な趣の中に粋を凝らした美しさ。日本人の美意識の真髄があります。和室のしつらえは、日本の文化・歴史・

伝統が息づいた空間と言えましょう。

国産の木材をふんだんに使い、手きざみで加工し、在来工法で建て上げる「雨楽シリーズ 高岡のまちや」では、日本家屋でしか表現できない魅力的な構造美、本物のやすらぎや癒し、文化や芸術にまで波及する本物の住まいをめざしています。

また、天然素材の家には、年月と共に古くなる（古く美しくなる）味わい深さもあります。それをしみじみ実感する暮らしの中で、現代人が忘れてしまった「日本の心」を呼び覚ましたいと思っています。

洋風に暮らしたい、カジュアルなライフスタイル、それももちろんいいのですが、しつとりとした落ち着きの雰

囲気、若々しい感覚も取り入れた和室を、取り入れてみてはいかがでしょうか。

● 花を生けたり絵を掛けたり、家を飾ることに身構えてしまうのですが。

日本には古来から年中行事を楽しむ風習がありました。お正月、桃の節句、端午の節句、お盆やお月見など、その時々で花や縁起物を飾って、風情を演出しました。さらに、夏になると障子をヨシズやスタレに変えたり、暮らしを彩る心意気を知っていたのではないのでしょうか。これが、先人たちの心のゆとりや豊かさだったと思います。

「花を生けたり絵を掛けたり、家を飾ることに身構えてしまうのですが。」

何も身構える必要はないのです。大袈裟な床の間や飾り棚がなくてもいいのです。玄関先の一角や部屋の隅、階段の手すりでも、ほんのひとつ、季節の花を飾ったり、小さなリトグラフを掛けるだけで、ちょっと趣が変わります。そして、「あらう、いい感じ！」とうれしくなるはずですよ。お子様の絵なんかでもいいですね。得意げな子供たちにご家族の会話がはずむでしょう。

「雨楽シリーズ 高岡のまちや」では、天然素材の住まいにしっかりとマッチする飾り棚を提案しています。ベーシックな形の飾り棚は、「自由に飾ることを楽しんでいただけるスペースです。」

「雨楽シリーズ 高岡のまちや」



● 常設展示場 会場インフォメーション

information

★ 土・日・祝日 / 10:00~17:00

★ 平日 / 連絡いただければ開館致します

☎ 0120-26-2582

※HPでも内観を見ることが可能です

至高木 至高出

清水町 関町

シャトレーゼ 北陸銀行

瑞龍寺

高岡市泉町1008-7

人と人とのつながりを大切に

雨楽

ミヤワキホーム

株式会社 **ミヤワキ建設**

〒933-0826 高岡市佐野1400番地の1

TEL 0766-26-2581

http://www.miyawakihome.com/